

平成27年度第1回みやま市総合教育会議 会議録

- ◆日時 平成27年6月18日 午後2時00分
- ◆場所 みやま市役所4階 第4会議室

1. 出席構成員（6名）

- ・市長 西原 親
- ・教育長 長岡 廣通
- ・教育委員 堤 央宜
- ・教育委員 早川 京子
- ・教育委員 井上 正明
- ・教育委員 樺島 靖子

2. 事務局出席者（6名）

市長部局

- ・副市長 高野 道生
- ・総務部長 塚野 仙哉
- ・秘書広報課長 加藤 武美

教育委員会

- ・教育部長 大津 一義
- ・学校教育課長 田中 裕樹
- ・学校教育課総務係長 吉川 春美

3. 次第

1. 開会（市長あいさつ 教育長あいさつ）
2. 教育委員紹介
3. 事務局紹介
4. 議事録署名人の指名等
5. 議事
 - (1) みやま市総合教育会議の運営について
みやま市総合教育会議運営要綱（案）
 - (2) みやま市教育に関する大綱について
 - (3) その他

資料① 地方教育行政の組織及び運営に関する法律【抜粋】（昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号平成 27 年 4 月 1 日改正）

資料② 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について【抜粋】（平成 26 年 7 月 17 日文部科学省初等中等教育局長通知）

資料③ 平成 27 年度みやま市教育施策【抜粋】

資料④ 市民憲章

資料⑤ 施政方針【抜粋】（平成 27 年第 2 回定例議会）

資料⑥ 第 1 次みやま市総合計画第 5 章

当日配布 第 2 期教育振興基本計画（概要）

【午後 2 時 00 分 開会】

1. 開会

市長あいさつ

新しい制度に基づく第 1 回みやま市総合教育会議を開催したところ、教育委員・教育委員会職員、市長部局からは高野副市長をはじめ多数の皆様にご出席いただき、ありがとうございます。教育委員会においては、日ごろから長岡教育長を中心にみやま市の教育行政の推進・子供たちの健全育成に大変ご尽力いただいていることに心から感謝申し上げます。

合併から 8 年と半年が過ぎたが、みやま市では先生方の熱心な教育のお蔭で高いレベルの教育が出来ている。特に長岡教育長は「みやま市ならではの教育」という事で、優しく力強い子供に育つよう、生きる力を養うための教育を目指し、教科だけでなく人間性を備えた総合的な学力向上に向けた努力をして頂いていること、教育委員の皆様も教育長と一緒に取組んで頂いていることに、心から感謝申し上げます。市長部局と教育委員会が力を合わせてみやま市の教育の水準の向上に邁進していきたい。

教育長あいさつ

各位ご多用の中ご出席いただき、誠にありがとうございます。お手元にお配りした平成 27 年度の教育施策は、今後数年間の教育ビジョンとして作成したもので、先日市長・副市長にもご説明し、ご承認いただいたものです。施策では「みやま市ならではの

教育を充実・発展させる」という観点から、学校教育は「裾野教育」、社会教育は「効力学習」、教育行政はチーム化を推進し学校・諸団体に寄り添うことを重点項目として、今年度はこれを具体化し、みやま市の教育の質が高まるよう進めていきたい、としています。来年度以降は、この施策についてもこれから策定する大綱を踏まえて、改善・充実していく予定です。

みやま市においては、これまでも市長・市長部局と教育委員会の円滑な連携は出来ていましたが、法律の改正により本会議を設置するからには、形ではなく実を取り、さらに手を携えて、市長・市長部局のご意見も率直にお聞きしながら、よりよい教育の知恵が出来ていければと思います。教育委員の皆さんにとっても、市長・副市長との教育談義、率直な意見交換をする場として有意義な会議としていきたい。

2. 教育委員紹介

事務局より紹介

3. 事務局紹介

自己紹介

4. 議事録署名人の指名等

【教育部長】議事録署名について、市長と教育委員会構成員から1名の計2名にお願いしたい。教育委員会構成員からは、今回は長岡教育長にお願いし、以降順番にという事でよろしいですか。

・・・全員同意・・・

【教育部長】議長の選出について提案します。みやま市においては地方自治法に基づく補助執行という事で、教育委員会が総合教育会議に関する事務的な部分を担わせて頂いていますが、議長は主宰者である市長にお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

・・・全員同意・・・

5. 議事

【市長】総合教育会議は、地方公共団体の長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議・調整の場であります。お互いに十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有していきたい。忌憚のない意見を出して頂きたいし、私も議長ではありますが、率直な意見交換をさせて頂きたい。

(1) みやま市総合教育会議の運営について

みやま市総合教育会議運営要綱（案）

【学校教育課長】別紙1の議運営要綱（案）について、説明（第4条1項中訂正「前条第2項ただし書き→前条第1項ただし書き」。）。

【市長】ご質問、ご意見はありませんか。

「質疑なし」

【市長】提案どおり運営要綱を定めてよろしいか。

・・・全員同意・・・

(2) みやま市教育に関する大綱について

【学校教育課長】・大綱策定に向けて、今後の進め方について説明

- ① 数年を見据えたものとして策定していく。
- ② 9月に第2回総合会議を開催し、事務局より素案を提出する。
- ③ 12月に第3回総合会議を開催し決定。

・資料①～当日配布分について説明。
本日皆さんの意見を反映して②の素案作りをしたい。

【市長】私が小学校・中学校のころは、先生は絶対の存在であった。最近の先生と子供、保護者の関係はどうか。

【井上教育委員】市長が危惧されている事について、一概には言えないが、保護者の高学歴化なども一因ではないか。物が豊かで便利で快適な社会になってきた中で、親や家庭が子供をどう育てていこうとしているのかが分からない。例えば携帯は買い与えるが、何か問題があった時にどう対応すればよいか分からないというようなこともある。

小学校の入学式や運動会で、元気で明るいあいさつに感心した。この子供たちが中学・高校とどう進むのか。そのような中、この会議でみやま市の教育の在り方をきちんとした方針として周知し、市民の皆様が協力して頂きながら定着させていくことは、非常に大きな使命があ

るのではないかと思う。

【市長】 子供達には真面目に努力してできる夢を持ってほしいと考える。

【堤教育委員】 幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校教育において、教職員の携わり方は非常に大切である。
あいさつについても指導の在り方によるところが大きい、教員自らが率先してあいさつし、雰囲気づくりをすることが大切だ。

【早川教育委員】 山川東部小学校では1年生から6年生までその時々の夢を記録し保存する。わが子も高学年になるにつれて、夢が現実的になっていった。
学校だけでなく、家庭においても、親が子供達の夢を応援できるような、やる気を起こさせるような環境づくりをすることによってやる気をおこすことができる。

【樺島教育委員】 今年の4月から教育委員になって感じたことは、少人数教育支援員・特別支援教育支援員等の手厚い配置、指導室の充実等、みやま市が教育に対してとても手厚いことである。
教育の始まりは幼児教育からだと思うので、保幼小中連携は課題である。又、保育園児・幼稚園児をみやま市へ多く集めると、そこで友達関係が出来上がり、地域の小学校へ就学して定住化に繋がる。
そのため、大綱については、子ども子育て支援事業計画との整合性を持つ必要があると考える。

【教育長】 保護者の傾向性については、みやま市の風土の良さとして、保護者の学校への信頼も厚く、子供の躰もしっかりしており基本的な生活習慣が身についていること、地域も支えてくれるといったところがある。しかし昨今増加しているクレームには早目に対応し、地域や保護者の協力を得られるよう努力するのは校長の役割である。

【教育長】 大綱の取り掛かりとして、資料4に市民憲章がある。又、先ほど学校教育課長からあったように、本日の皆さんの意見を反映させて次回までに素案を作る。
みやま市の地域・学校の良さを伸ばし、足りないところを補っていくという二つのベクトルがあると思うが、積極的なご意見をお願いしたい。

【堤教育委員】 日本の各地域、大きな祭りがあると一つにまとまる。地域学校挙げての大きな祭りがあれば、盛り上がるし、お祭りのために人が帰ってくる。

【教 育 長】みやま市総合計画に、祭りに関することは盛り込まれていないか。

【総務部長】 盛り込まれていない。

【教 育 長】市長は「こんな子供に」といった希望があるか。

【市 長】人と自然を大切にし、正義感の強い、忍耐強い子供に育ててほしいという希望がある。

【教 育 長】社会教育の面のみやま市の良さとして、体育協会に2,000人、文化協会に2,500人が加盟している。これは9人に一人がどちらかの団体の構成員ということになり、南筑後市町随一である。役員さんも大変お世話頂いており、これを受け継ぐ後継者と更なる発展についても考えていく必要がある。

【副 市 長】あいさつは、子供達が健全に育っている事のバロメーターであり、とても大切である。

【教 育 長】みやま市の子供の良さとしては、素直で物事に意欲的に取り組み、あいさつも良い。そういった良さを伸ばし、コミュニケーション力・主体性の不足、外へ出た時の自己主張が苦手といった弱みへの対策を強化する必要がある。

平成になって学習指導要領は3回変わっても、文部科学省は、一貫して「社会の変化に対応する力」を求めている。国や地域での多くの変化に対応して乗り越える力を鍛える必要がある。社会教育についても元々ある市民力を伸ばし、支えていくことが必要だ。

【井上教育委員】施策にも「みやま師魂の育成」とあるが、学校の事務整理に忙殺されず、1時間1時間の授業で勝負する教師を育てなければならない。「絶対自分の授業で子供を寝せない・不登校を出さない」と誇りを持った教師を鍛えることが学力向上に繋がる。

【早川教育委員】数年前の南小学校の学校訪問で、子供たちの「勉強が分かるようになって学校が楽しくなった」との感想が多数掲示され、先生からも「楽しい授業になるように頑張る」との返事が書いてあり、信頼関係を感じた。市内留学制度を活用して、そういった先生の授業から学び、気付いても

らう事は大変良い。もっと活発にやっていただきたい。

【堤教育委員】競争を否定するような風潮があるが、職員間で切磋琢磨することは大切である。

【副市長】武雄市のような、市独自の教育が可能なのか。

【教育長】制度的にやれないことはない。

【副市長】私の考えでは、授業が分かれば学校が面白く、不登校も減ると思う。

【市長】意見も出尽くしたようですので、今後は事務局提案のスケジュールで進めていきたいが、よろしいか。

・・・全員同意・・・

【市長】それでは次回の会議において大綱案の審議をお願いすることとし、議事を閉じます。

【午後3時15分 閉会】